

「北海道文学館俳句賞」の授賞について

2019年1月16日 公益財団法人北海道文学館

北海道の新しい俳句作家の活躍を後押しする一助となることを願って、創立50年記念事業として創設いたしました「北海道文学館俳句賞」が決まりましたのでお知らせします。作品は全国から325人からの応募がありました。最高年齢は96歳（2人）で、90歳以上は10人でした、最も年下は9歳でしたが、十代は14人。全体には熟年、高齢者層からの応募が中心でした。

【北海道文学館俳句賞各賞と入選、佳作一覧】（入選以下の掲載は応募順です）

■大賞 1人

「牛を飼ふ」井口寿美子=いぐち・すみこ（天塩郡天塩町） 産声といふも牛の仔クリスマス
*女性 62歳 酪農業

■井手都子記念賞 2人

「有と時」旭太郎=あさひ・たろう（札幌市） 草二本こそ「存在と時間」赤黄男（かきお）の句
*男性 85歳 作家（荒巻義雄）

「知床」籬朱子=まがき・しゅこ（札幌市） 大鷲の水晶の目に射貫かれし
*女性 63歳 自営業

■未来賞 3人

「木星の匂ひ」三品吏紀=みしな・りき（帯広市） 大根漬ける父系の掟知らぬまま
*男性 38歳 自営業

「冬に入る」道下いずみ=みちした・いずみ（河西郡芽室町） 山河はや風の九月や胡弓の音
*女性 53歳 野菜農家

「蝶飛べる蝶の夢」柳元佑太=やなぎもと・ゆうた（東京都） 春山河海老天麩羅の海老小さき
*男性 20歳 旭川出身、東京の大学生

■選考委員賞 7人

◎源鬼彦賞

「父の孤独」高松暮秋=たかまつ・ぼしゅう（帯広市） 鯨群来増毛の海は父を呼ぶ

◎永野照子賞

「くれなゐ」藤谷和子=ふじや・かずこ（札幌市） 流水接岸顛顛（こめかみ）のきしと鳴り

◎山田航賞

「むつのはな」松山帖句=まつやま・じょ一く（愛媛県松山市） 残雪の谷ここより先が富良野塾

◎辰巳奈優美賞

「飾り藁」宮ケ丁孝子=みやがちょう・たかこ（札幌市） 紵台（くけだい）にひろく緋袴鳥帰る

◎安田豆作賞

「雪の日々」 日下部安曇＝くさかべ・あずみ（札幌市） まなざしや雪の彼方の小世界

◎五十嵐秀彦賞

「寂光土」 瀬川青猿＝かゆかわ・せいえん（河東郡音更町） 浜近き旧家おぼろの磨りガラス

◎平原一良賞

「仮眠室」 栗山麻衣＝くりやま・まい（札幌市） 流星や魚の耳石に細き線

■入選 12人

「八月十五日」 菊池俊之（札幌市） 潜むものに潜ませて枯尾花
「白鳥を迎えに」 鹿岡真知子（札幌市） あかるさも寂しと思う夏帽子
「雪紋」 井上絃（札幌市） イヤホンはずれ制服は東風はらむ
「森は秋」 安田中彦（札幌市） 算数の時間水吸ふヒヤシンス
「生生流転」 三輪禮二郎（札幌市） さきがけは燃ゆる色なり木の芽山
「五月十一日」 小林ろば（上川郡東川町） 井手郁子さん逝きし日わたし生まれた日
「普通のひと日」 佐藤まゆみ（札幌市） 春の風邪書棚の中の七福神
「ときどき明るい」 井口可奈（東京都） 梨を切るけして光らせないように
「はるかな国」 奈良香里（愛媛県松山市） 戦場にたまゆらの冬日向かな
「あいする」 平田莉々（旭川市） 冬の宵カーラジオから愛の歌
「腹這ふ」 瀬名杏香（東京都） 手帳より切手こぼるる目借時
「萩まぐれ」 堀下翔（茨城県つくば市） 瀬に載りて花失せたるよ萩一枝

*以下、選外ですが、入賞・入選に準ずる優れた作品であるとして「佳作」といたしました。

佳作 64人

「颯起の血」 尾内以太（静岡県浜松市） 天井へ田螺の息を輝かす
「香料公害」 草井純（札幌市） 花粉症柔軟剤で息詰まる
「朱雀」 高田獄舎（北広島市） 碑の文字に黒蟻あそぶ午前かな
「いのち」 衣女（旭川市） 去年今年送りし人を数へけり
「追懐」 小林道彦（札幌市） 朝練のブラスバンドや百千鳥
「野菜の春秋」 辰川英俊（砂川市） 今年こそ氷柱のようなごぼうをと
「月のうしろ」 大森三枝子（北斗市） 海霧のおし寄せてくる茶碗飯
「初蝶」 西村山憧（札幌市） 初日の出天動説に加担する
「春夏秋冬」 高間ヨシエ（幕別町） 大威なる大地の目覚め露の臺
「里の秋」 西澤カズ子（空知郡奈井江町） 廢出しのポンプの水をなみなみと
「北斗市を」 田中實（北斗市） ちるさくら一夜泊まりの通い船
「海取（かいすう）」 土門きくゑ（苫前郡初山別村） 海取の祠守り継ぎ海人の春
「小さな旅」 水口茂（北広島市） 海明けの風を捉へて鷺雲に
「積丹の風情」 横村楓葉（余市郡余市町） 捨て雪のいのちの山の日の出かな
「北に暮らす」 安田潤子（石狩郡当別町） 初日の出終の住処とせし窓に
「移ろひ」 公春（上川郡鷹栖町） 秋暁の救急車の中の老母の手
「西暦標記」 鈴木雅美（札幌市） 釧屋の百の抽出し春兆す
「火星接近」 前田恵（旭川市） 火星接近ちりめんじゃこの目玉喰う
「マトリョーシカの腰」 樋山ミチ子（札幌市） 目覚むるもきのふのつづき春は遅遅

「月と不死」月岡道晴（札幌市） 焼芋の包みにて知る訃報かな
「望郷」浅井通江（札幌市） 満開の花の中なる車椅子
「たまご」坂本真紅（札幌市） さみどりの星ぞ地に降る露の臺
「風の手触り」大沼恵美子（厚岸郡厚岸町） 木の根明く父の容を解かせて
「芭露街道」本田初美（紋別郡湧別町） サロマ湖の空悠々と春の夢
「私の空」伊藤哲（札幌市） 初暦予定百日先までも
「江差にて」東本礼子（札幌市） 名にし負う江差たば風島凍る
「胡瓜蒔く」三島ちとせ（上川郡当麻町） 輪を描く蜂の羽音を探しけり
「梃子」伊藤画哲（札幌市） 夏風邪の一進一退犬と眠る
「元坑夫の独語」渡辺健一（札幌市） 黒ダイヤ今も蔵して山笑ふ
「雪浄土」伊藤玉枝（小樽市） 山河もう風しか棲まず雪を待つ
「去年今年」臼井千百（札幌市） 枕辺の下着真っ新去年今年
「予約席」平尾知子（札幌市） あめんぼう遊び足りない手足かな
「鴟（もず）日和」番妙子（小樽市） 手ぐしにて口角上げる初鏡
「ピクニックコンサート」西田美木子（江別市） 万緑に包み込まれる音楽堂
「ずっと合掌／湯気の扉」亀松澄江（札幌市） 千本鳥居ひとりぼっちの手の臍
「窓の鍵」本ゆみ（札幌市） 手触りの違う合鍵春の夜
「勇者たち」岡本敬子（札幌市） 遠き日の花咲く島へ勇者たち
「あをあらし」加藤鉦物（大阪府吹田市） 原生林に木造寮や春の泥
「冬鷗」庭田一美（札幌市） 平成と暫し遊ぶや女正月
「鳥渡る」田中とも子（石狩郡当別町） 馬も吾も道産子夏野駆けし日も
「ふりがなのやうに」笠井操（北見市常呂町） 露の臺踏まれほぐれて壽の字なす
「母の茶毘」福星遊子（札幌市） チューリップぽりと崩ゆる花卉かな
「恋猫の窓」終月子（旭川市） 恋猫のゐる目玉焼の決壊
「長い座布団」遠藤由紀子（札幌市） 車輪まだ地球離れず星月夜
「近景」及川澄（札幌市） 池蛙佳し春は曙のみならず
「あのねあのね」藤波久三（札幌市） お母さんあのねあのねの日焼けの子
「千六本」草刈勢以子（札幌市） 茱萸（ぐみ）の実の一粒づつに雨ひかる
「ペトリ皿」福井たんぽぽ（千歳市） さらさらと充電したい北寄貝
「今年米」名取光恵（苫小牧市） とびきりの星月夜なり地震頻る
「風の唄」悦哉（虻田郡洞爺湖町） 真っ先に光あつめし堇（すみれ）かな
「組曲」金山ちひろ（北見市） くちびるに磁器の薄さよ冬に入る
「朔北の島」加藤あや子（空知郡南幌町） 利尻嶺の光背に現れ初日の出
「花野径」平京子（天塩郡天塩町） 花の径彩のあふれてみて淋し
「春舞い」松咲杏果（岩内郡岩内町） 春風に揺れる黒髪から音符
「手術室の無季」富永拓（札幌市） 手術室の無季炎昼を過ぎにけり
「保育士兼母若葉マーク」島貫麻衣子（札幌市） 果ての月臨時保育士募集あり
「獺祭」増田植歌（札幌市） 椿寿忌やアイヌの舟の難航す
「花万朶」佐藤宣子（岩見沢市） 初花や帰郷の膳に向かひ合ふ
「北窓を」ひびきち（旭川市） 北窓を開く三時は鈴カステラ
「北国巡礼」大内鉄幹（札幌市） 利尻富士へ初護摩太鼓とどろけり
「線ひとつ」脇本千尋（札幌市） 飛行機の線ひとつ引く秋の空
「コトモナゲ」中村論人（札幌市） 小雪やサプリメントに懐疑的
「ひかりの泡」久石ソナ（東京都） 台風は遠く都会の夜を思う
「盃」青山酔鳥（恵庭市） おどれなくらふ おどれらつくらふらい早苗